

きた お ち ちょう
北 越 智 町

地元豪族越智氏が支配

当地名が「北ヲチ」と東大寺文書に初登場するのは、平安時代末期の寿永元（一一八二）年です。鎌倉時代（一一八五―）に入ると東大寺の領有権が揺らぎ、中世になって檀原市南部を抑えた豪族・越智氏の領地になったようです。

町南部にある貝吹山・浄宗寺（真宗興正派）に残る「浄宗寺縁起」宝暦八（一七五八）年記録によりますと、後醍醐天皇（在位一三一八―）のころ越智氏家臣の吉田丹後守一族が当地の貝吹山によって、吉野に攻め入ろうとした足利尊氏の軍を迎え打ち一族ほとんどが戦死し、その戦死者を弔うため建てたのがこの寺だといえます。また、町北部にある天神山の山頂に鎮座する威徳天神神社も、このころ吉田丹後守一族が創建したと伝えられています。いずれにしても、越智氏の影がちらつく地名となっています。

北越智村と呼ばれて江戸時代を過ぎたあと明治二二年に新沢村の大字となり、昭和三十一年の檀原市発足で「北越智町」となりました。野球部が春の甲子園（平成一二年）に出場した県立檀原高校は、この町で昭和五〇年に創立されています。ちなみに南越智町はありません。